

名古屋市営交通事業経営計画 2028

計画の理念・計画期間

▶ 策定の趣旨

市営交通 100 周年という節目を迎えて最初の計画となる「名古屋市営交通事業経営計画 2028」は、名古屋のまちの将来に貢献できるよう、人々の価値観や生活様式、社会・経済情勢などの事業環境が大きく変わる時代に適応し、持続可能な経営を実現するために策定するものです。

▶ 計画の理念

変わる時代に、変わらぬ使命のために！

“安全・安心、快適・便利な交通サービスを提供する”
という変わらぬ使命を果たし、
名古屋のまちの将来に貢献できるよう、
事業環境が大きく変わる時代に適応しながら
持続可能な経営を実現します

▶ 計画期間

令和 6 年度から
令和 10 年度までの 5 年間
(長期的展望に立った収支
計画は、令和 15 年度まで
の 10 年間)

取り組む施策

▶ 施策の構成

交通局が取り組むべき課題を踏まえ、取り組むべき施策として整理しました。
取り組む施策は、柱立てとなる 4 つの大きな枠組みと 12 種類の施策によって構成されます。



▶ 施策構成に込めた思い

上記の体系図は、施策を推進する土台として「施策 4 持続可能な経営の確立」を進めるとともに、交通事業者として最も重要な責務である「施策 1 安全・安心の推進」を中心に据え、「施策 2 快適性・利便性の高いサービスの提供」や「施策 3 まちの将来に向けた行動」にも取り組むことを示しています。

これらの施策のもとに、施策を実現するための 78 の具体的な事業がひもづきます。

施策を実現するための事業

【凡例】◎：新規事業 ○：拡充事業 ・：継続事業

施策1 安全・安心の推進

お客さまに安全に、安心して市バス・地下鉄をご利用いただけるよう、輸送の安全性の向上、災害対策やセキュリティの強化を図るとともに、施設などの計画的な維持管理を進めます。

1-1 輸送の安全性の向上

- ◎ バス車両への安全装置の導入
- ドライブレコーダーの機能強化
- 可動式ホーム柵の整備
- ・ 輸送の安全に関する研修等の実施
- ・ 運輸安全マネジメントの推進
- ◎ 乗務員の健康管理の充実



■ 鶴舞線可動式ホーム柵
(庄内緑地公園駅)

1-2 災害対策・セキュリティ強化

- ・ 地下鉄構造物の耐震補強
- ◎ 浸水警報装置の整備
- ◎ 想定し得る最大規模の風水害への備え
- ・ 災害発生時の情報発信
- ・ 災害・危機対応力の向上
- ◎ 地下鉄車両への車内カメラ設置
- 駅構内カメラの増設



■ 車内カメラ

1-3 計画的な維持管理

- ・ バス車両の更新
- ・ バス料金箱の更新
- 地下鉄車両の更新
- ・ 地下鉄車両の主要電気機器の更新
- ◎ バス停留所施設管理システムの開発
- ・ 地下鉄構造物の長寿命化
- ・ エレベーター・エスカレーターを更新
- ・ 地下鉄電気設備の更新

施策2 快適性・利便性の高いサービスの提供

お客さまの快適性・利便性を高めるため、施設のリニューアルや誰もが利用しやすい環境づくりを進めるとともに、お客さまのニーズに対応したサービスの提供に取り組みます。

2-1 施設のリニューアル

- ・ バスターミナルの環境改善
- ・ 停留所施設の整備・改修
- 駅のリニューアル
- ◎ 駅のリフレッシュ
- ・ 駅構内トイレのリニューアル

2-2 誰もが利用しやすい環境づくり

- 駅のエレベーターの整備
- ・ ホームと車両の段差・隙間の改善
- ・ 駅のバリアフリー設備の充実
- ・ バス車内への液晶式停留所名表示器の設置
- ・ 地下鉄の車内案内表示装置の多言語化
- 駅の旅客案内表示装置の更新
- ・ わかりやすい案内サインの整備
- 戦略的な情報発信
- ・ 市バス・地下鉄のマナー啓発



■ 駅のエレベーターの整備

2-3 ニーズに対応したサービスの提供

- ◎ 定期券 WEB 予約サービスの導入
- ◎ クレジットカード対応券売機の設置拡大
- キャッシュレス化の推進
- ・ バスの路線・ダイヤの見直し
- ・ 地下鉄のダイヤの見直し
- 東山線の混雑緩和策の検討
- ・ 駅ホームの冷房化
- ◎ データの利活用によるニーズの把握・分析
- ◎ 「標準的なバス情報フォーマット」に準拠した情報の整備



■ クレジットカード対応券売機の設置拡大

施策3 まちの将来に向けた行動

名古屋のまちの将来を見据え、交通事業者として、まちづくり等との連携や環境負荷の低減、子ども・子育てのサポートのために行動します。

3-1 まちづくり等との連携強化

- ◎ 栄駅の総合的な整備
 - ・ 周辺のまちづくり等との連携
- ・ リニア中央新幹線の開業に向けた名古屋駅の整備
 - 企業・大学・地域・他部局等との連携

3-2 環境負荷の低減

- ・ 照明のLED化
 - ◎ エコドライブの推進
- ◎ 非化石エネルギー自動車の試行導入
 - 公共交通利用の促進
- ◎ 高圧配電の送電ロスの削減に向けた整備



■電気バス

3-3 子ども・子育てのサポート

- ◎ 「子ども・子育てサポートベンチ」の設置
 - ◎ 駅でのベビーカーレンタルの試行導入
- ◎ 地下鉄車両への「子ども・子育てサポートスペース」の設置
 - 授乳室の設置
 - ◎ 子ども向け特設サイトの開設



■子ども・子育てサポートスペース（イメージ）

施策4 持続可能な経営の確立

将来にわたって安定的に交通サービスを提供し続けるため、収入増加策の展開や事業運営の省力化・効率化などの経営改善に努めるとともに、人材の確保や職員力の向上を図ります。

4-1 収入増加策の展開

- 広告料収入の確保
 - ・ イベントの開催などによるお出かけ促進
- 資産の有効活用
 - ・ 企画乗車券の発売
- ◎ 戦略的な利用促進策の展開
 - ◎ 寄附金収入の確保



■車内デジタルサイネージ

4-2 事業運営の省力化・効率化

- 市バスの管理委託の拡大
 - ・ 工事コストの縮減
- ◎ 地下鉄車両の整備業務の効率化
 - ・ 経常的な経費の縮減
- ◎ 効率的な駅業務の検討
 - ◎ レトロでんしゃ館・資料センターの機能分化
- ◎ 保線業務の効率化
 - 市バス事業の経営基盤強化
- ◎ デジタル技術の活用による業務の効率化



■なごや市バス・地下鉄応援寄附金返礼品（市バス局章）

4-3 人材の確保・職員力の向上

- 安定的な人材確保のための取組みの実施
 - ・ 働きやすい環境づくり
- 職員の教育訓練体制の強化
 - ・ 接客サービス向上のための取組みの実施
 - ・ コンクールの実施

計画の進捗状況

市バス

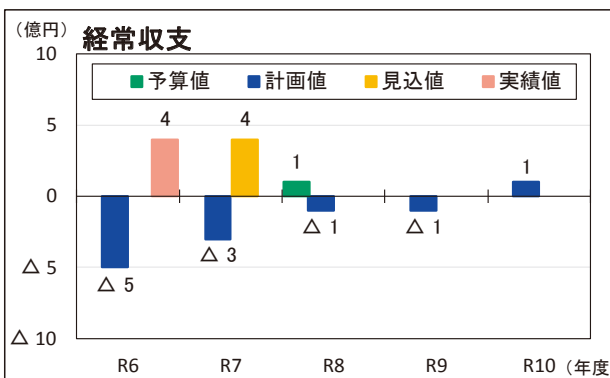
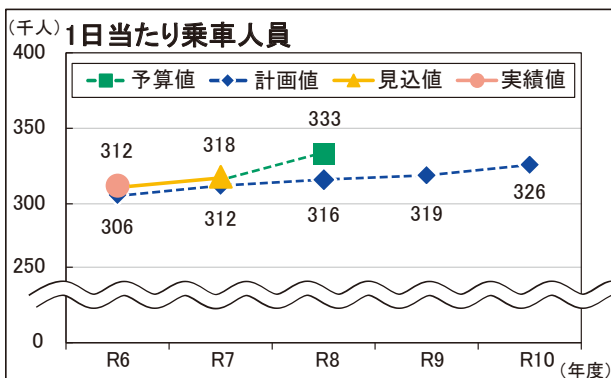


計画目標

- ・令和10年度に1日当たり32万6千人の乗車人員
- ・計画期間中に経常収支を黒字化

●計画目標と決算（見込）の比較

区分	令和7年度 計画 (A)	令和7年度 決算(見込) (B)	差引(B-A)
1日当たり乗車人員	312千人	318千人	6千人
経常収支	△3億円	4億円	7億円



(注) 令和6年度は実績値、7年度は決算見込値、8年度は予算値

地下鉄

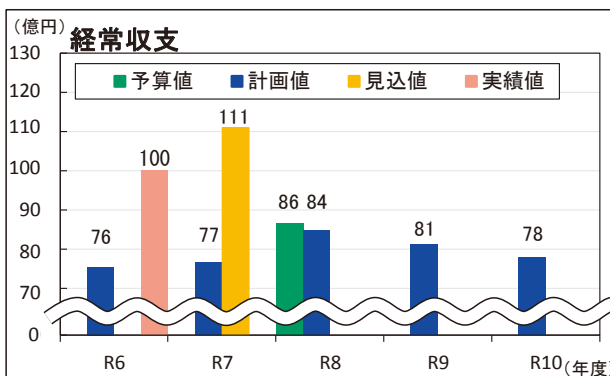
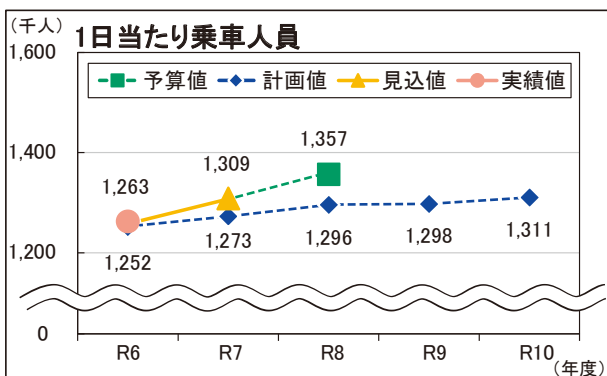


計画目標

- ・令和10年度に1日当たり131万1千人の乗車人員
- ・計画期間中の経常収支の黒字を確保（累計396億円以上）

●計画目標と決算（見込）の比較

区分	令和7年度 計画 (A)	令和7年度 決算(見込) (B)	差引(B-A)
1日当たり乗車人員	1,273千人	1,309千人	36千人
経常収支	77億円	111億円	34億円



(注) 令和6年度は実績値、7年度は決算見込値、8年度は予算値